

委員会活動報告書

委員長名 鈴木 良美

【委員会名】 健康危機管理対策委員会	
【メンバー】 ◎鈴木 良美(東京医科大学)、○石田 千絵(日本赤十字看護大学)、山下留理子(徳島大学)、井口 理(日本赤十字看護大学)、嶋津多恵子(国際医療福祉大学大学院)、當山 裕子(琉球大学)、佐藤 太地(日本赤十字看護大学)、堀池諒(大阪医科薬科大学)、¥山口 拓允(東京医科大学) *奥田 博子(国立保健医療科学院)、*河西 あかね(全国保健師長会) *佐々木 亮平(岩手医科大学)、*永野 智子(熊本県看護協会)	
50音順、◎委員長、○副委員長、¥会計担当、*会員校以外の委員、()所属名	
【活動方針】 1. 感染症の健康危機管理に対する保健師教育の現状と課題を明らかにし、教育の強化に向けた提言を行う。 2. 昨年度完成した健康危機管理の視聴覚教材(感染症パンデミック・災害)活用の普及を図る。さらに健康危機管理に関する演習用視聴覚教材の内容を検討する。 3. 災害等(地震・津波・台風・感染症のパンデミック・その他)発生時に会員校に対し、迅速かつ適切な対応を図るため、情報収集、活動の調整と支援、情報発信等を行う。	
2023(令和5)年度	
	1. 調査結果から感染症の健康危機管理に対する保健師教育の現況と課題を明らかにし、教育の評価に向けた提言を行うことができる。 2. 昨年度完成した健康危機管理の視聴覚教材活用の普及を図るとともに、新たな健康危機管理に関する演習用視聴覚教材の内容を検討できる(2024年度までの2年計画)。 3. 災害等発生時に、「災害発生時の支援指針」に則り、状況に応じて対応できる。
活動報告	1. ・保健師学生および新任期保健師の感染症の健康危機管理に関する能力向上を目指し、①保健師教育機関の教員・学生への質問紙調査、②新任期保健師へのインタビュー、③管理期保健師へのインタビューを行った。研究成果から、保健師基礎教育の強化に向けて学生の到達割合が低かった積極的疫学調査等の演習の強化や、新任期保健師への現任教育においては危機発生時でも可能な新任期の育成体制の構築ならびに平時からの準備体制の構築が求められると考えた。本活動は日本看護協会 感染拡大に備える看護提供体制の確保に関する調査研究助成事業に基づくものであった。 2. ・2022年度に完成した視聴覚教材に関する会員校アンケートの結果では、「保健師の語りが入っており学生の心に響く内容である」などのコメントがあり、学生が健康危機管理発生時の実情を学んだり、学生の主体性を促すところが評価されていた。 ・視聴覚教材の活用方法に関して 第38回全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会分科会「どう活用する?『健康危機管理対策の保健師活動』視聴覚教材」で報告した。 ・上記の調査やアンケート結果から、演習用の視聴覚教材が必要と考え、2023-2024の2年計画で作成中である。 3. ・2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震への対応として、「災害発生時の支援指針」に則り、教育機関の授業等が再開される1月4日に北陸、近畿南ブロック理事の廣金理事を中心に石川県内4校の会員校に連絡を取り、保健師養成課程の教員および学生の無事を確認した。さらに、関連学会との災害関連の情報共有を行った。